

県会議員 奥村のり子の
しんぶん 赤旗 読者ニュース

2013年4月21日 第80号

—奥村のり子生活相談所—

〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11

電話&FAX 073-427-7121

田辺市議選応援やら「つどい」で次々と

4月21日(日)は田辺市議選の投票日です。私も応援に行ってきましたが、4議席定数削減に加え、新人候補も多く激戦になっています。今回の選挙は県議会でも問題になった植樹に関する森づくり税の不正受給の徹底解明に向け、市民の立場に立ち不正を許さない日本共産党の3議席を守るため田辺市にお知り合いのある方はご協力よろしくおねがいします。

さて、参議院選挙もいよいよ3ヶ月後に迫って参りました。安倍内閣の恐怖政治を許さないために「つどい」をたくさん開き、日本共産党へのご理解を広げてゆきたいと思えます。

先日は河西診療所での「つどい」に参加させていただきました。介護現場から切実な願いが出されました。一生懸命勉強して資格をとっても正規雇用にならないということに悩んでいることです。また、党の比例代表5人の街頭演説のDVDをみました。日本が直面している問題についてそれぞれ熱い思いが語られ胸が熱くなります。ぜひみんなでみて頂きたいと思えます。

14日は新日本婦人の会の会員さんで作っている「親ばと後援会」のトーク集會に原やすひさ参院選挙区予定候補とともに参加。15日は私の生活相談所で「つどい」を開きました。近所の方や後援会の方など11人おいでくださいました。最初の30分は県の作成した紀伊半島の水害記録のDVDをみました。そして議会報告をしたあと、和歌山県・市の防災対策について話し合い、大変盛り上がりました。「いざ」と言う時、具体的にどこへ避難すればよいか日頃から考え、積極的に自治会や行政に働きかけてゆくことが大事ということになりました。(のり子)

お粗末な東電の汚染水漏れ出しこれが原発を操る企業の深層？

日刊「赤旗」がしばしば報道する東電福島第一発電所の放射能汚染水の大量漏れ出し事故。溜め込んだ汚染水は地下貯水槽7つのうち3つで相次ぎ漏水。大きいもので1万リットルの容量に水を溜めるには厚さ1mのコンクリートで底も壁面も固める必要があるのに、底面だけは10センチのコンクリりだがあとは産廃処分場で問題になっている厚さ1.5ミリの遮水シートを2枚重ねて困っただけ。慌てて別の貯水槽に移送中に配管の繋ぎ目から漏れ出したり、タンク増設で移すというがそれも6月までかかる。その上、今でも大量のタンクでもう敷地がないと言いつつ…。ネズミ一匹で原子炉冷却水が長時間ストップなど東電のコスト優先の欠陥構造は、原発を操る企業かと疑う。今後も一日当たり400ト増え続ける汚染水処理の抜本的解決策はなし。その裏には「汚染水は薄めて海へ捨てる」との思惑がミエミエだ。薄めると言っても隠蔽好みの東電の対応じゃ誰が信じる？遠くまで回遊する魚がいる海へ捨てれば世界中から抗議は必至。原発事故の後始末のこんな一事を見ても原発は必要ないと確信。共産党が提案した「東電と国の責任で廃炉のため日本の英知を結集し、一大事業として取り組むこと」が必要だ。(編集室)

のり子の週日誌

(主なもの)

- 4月19日 街頭宣伝行動、地域訪問
- 20日 地域訪問、演劇鑑賞会
- 21日 地域訪問、つどい
- 22日 県庁内在庁
- 23日 地域訪問、地区社保部会
- 24日 県議団会議、デイサービスボランティア
- 25日 無料生活相談日、団体まわり、地域訪問

山下参院議員が来和

13日未明、和歌山市に震度4の地震。震源地の淡路島は震度6弱。皆さん驚いたのではないのでしょうか。その5日前の8日、山下よしき日本共産党書記局長代行・参院議員が、和歌山市の地震、津波、災害対策の取り組みについて、その対策状況の調査で来和しました。

国の地震・津波予測の見直しがされ、その対応の実態調査と国政に対する要請の聞き取りです。調査には私をはじめ奥村のり子県議ら県議団、市議団が同行しました。

懇談会では市議団は毎年、市民要求実現のため予算要求をしていますが、そのうちの防災

市の地震対策を聞き懇談

また国への要望として紀の川堤防の「浸透破壊」対策の実施等を要請しました。

市の担当部からは和歌山市の取り組みとして行政無線、避難体制のあり方、木造住宅の耐震化、避難道路の整備、海抜表示、防災マップの作成と全戸配布、市民への情報伝達手段の改善等の説明を受け、今後の対応を質しました。



懇談後、磯ノ浦地区の「避難道路」の視察を行い、また本脇漁港を訪れ、地域の自治会関係者との懇談で防災対策の取り組みの現状と市政、県政、国政への要望を聞くことができました。(写真・立つているのが山下さん。その手前に原やすひさ氏と右端が渡辺です)

党市議会議員 渡辺忠広



懇談後、磯ノ浦地区の「避難道路」の視察を行い、また本脇漁港を訪れ、地域の自治会関係者との懇談で防災対策の取り組みの現状と市政、県政、国政への要望を聞くことができました。(写真・立つているのが山下さん。その手前に原やすひさ氏と右端が渡辺です)

リレートーク

Relay talk